

2018年度 環境活動レポート
(2018年 7月～2019年 6月)

株式会社ワールド・クリーン

2019/11/29 発行

目次

1. 環境方針	3
2. 事業活動の規模	4
3. 株式会社ワールド・クリーン 環境経営システム 組織一覧表／役割・責任・権限表	6
3-1. 組織一覧表	6
3-2. 役割・責任・権限表	7
4. 環境目標	8
廃棄物の削減及びリサイクルの推進	8
CO ₂ 排出量の削減	8
排水量の削減	8
社会貢献、環境保全の仕組み・体制整備	8
5. 環境活動計画	9
廃棄物の削減及びリサイクルの推進	9
CO ₂ 排出量の削減	9
排水量の削減	10
社会貢献、環境保全の仕組み・体制整備	10
6. 実績	11
廃棄物の削減及びリサイクルの推進	11
CO ₂ 排出量の削減	11
排水量の削減	11
社会貢献、環境保全の仕組み・体制整備	12
7. 環境活動計画の取組みと評価、次年度の取組み	13
8. 環境関連法規制等の順守状況	16
9. 廃棄物処理料金 単価一覧	16
10. 代表者による全体評価と見直しの結果	16
資料：株式会社ワールド・クリーン 処理フロー図	17

1. 環境方針

環 境 方 針

<環境理念>

当社は環境悪化ストッパーとして、現在の我々と未来の子孫が、安全快適にこの地球上で生活することが出来る環境を保持するために、『環境保全第一』を環境理念に掲げ、廃棄物を資源と捉え、廃棄物の有効活用と、法に則った環境保全を推進することが、当社の役割であることを全社員が認識し、全社一丸となって環境保全活動に取り組めます。

<環境保全行動指針>

I. 具体的行動

- ① 廃棄物の削減及びリサイクルの推進
 - 産業廃棄物
 - 当社に処理を委託された全ての廃棄物のリサイクル率を常に把握し、飼料化率の向上及び廃プラスチック類のリサイクルを進める。
 - 一般廃棄物
 - 飛島リサイクルセンターから排出される可燃ごみ、不燃ごみ、紙くずの発生量を毎月把握し、増加の際は原因を追及し改善を計画する。
- ② CO2 排出量の削減
 - 電力
 - 飛島リサイクルセンターの電力量を常に把握し、増加の際は原因を追及し、改善を計画する。
 - 自動車燃料
 - 営業車、トラック、フォークリフト
 - ❖ 燃料使用量を毎月モニターし、燃費悪化が著しい場合は原因を追及し改善を計画する。
 - ❖ 将来は電気やハイブリッド車輛を優先的に利用する事を検討する。
 - LP ガス
 - ❖ 飛島リサイクルセンター事務所の使用量を毎月把握し、増加の際は原因を追及し改善を計画する。
- ③ 排水量の削減
 - 飛島リサイクルセンター作業洗浄水の使用量を毎月把握し、増加の際は原因を追及し改善を計画する。
 - 飛島リサイクルセンター事務所の使用量を毎月把握し、増加の際は原因を追及し改善を計画する。
- ④ 社会貢献
 - 未利用エネルギー資源のエネルギー化の研究開発と実施
 - 地域での環境保全活動への参加

II. 法令の遵守

- 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。

III. 環境活動の公表

- 環境への取り組みを環境活動レポートとしてとりまとめ公表します。

2010年 4月 3日

改訂：2017年12月26日

改訂：2018年 1月 5日

株式会社ワールド・クリーン
代表取締役 長尾 秀義

2. 事業活動の規模

■登録事業所の概要

事業所名及び代表者名

株式会社ワールド・クリーン

代表取締役 長尾秀義

法人設立年月日：平成4年4月17日

■所在地

本社、飛島リサイクルセンター：愛知県海部郡飛島村金岡54番

■環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者：藤本和也(事業部長)

連絡先：0567-57-0533

担当者：藤本和也(事業部長)

連絡先：0567-57-0533

■事業内容(認証・登録の範囲)

・産業廃棄物中間処理、産業廃棄物収集運搬、食品廃棄物の再生・飼料製造
(対象事業場：本社、飛島リサイクルセンター)

・廃棄物処分業許可番号：第02320075513号

許可年月日：平成26年6月11日

許可有効年月日：平成31年5月5日

・事業の規模

資本金 10,000,000 円

年間売上 714,434,830円(2018年度)

従業員数 18名

延床面積 2,000 m²

・処理能力(中間処理業)

・事業の区分

・中間処分(圧縮・選別、混練、選別、破碎、破碎・選別)

廃棄物処分業許可番号：第02320075513号

許可年月日：令和元年7月12日

許可有効年月日：令和6年5月5日

破碎・選別施設 8.72 m³/日

廃酸、廃アルカリ、ガラスくず・コンクリートくず(工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く。)及び陶磁器くず(自動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く。)

破碎・選別施設 29.2 m³/日

廃酸、廃アルカリ、ガラスくず・コンクリートくず(工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く。)及び陶磁器くず(自動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く。)

破碎・選別施設 8.4 m³/日

汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類(自動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く)

破碎施設 40.16 m³/日

動植物性残さ

破碎施設 17.12 m³/日

廃プラスチック類(自動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く)

圧縮・選別施設 22.48 m³/日

廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類(自動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く)、金属くず

選別施設 88 m³/日

汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類(自動車等破砕物及び

石綿含有産業廃棄物を除く)、動植物性残さ、金属くず(自動車等破砕物を除く)

混練施設 156 m³/日

汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、動植物性残さ

・収集運搬業(いずれも積替え保管を含まない)

車両台数: 2台 (4 t 脱着コンテナ車 1台、10 t ウイング車 1台)

(※主として場内作業用であるが、業としても稼働)

許可自治体

愛知県 許可番号02300075513

許可日 平成28年3月19日、有効期限:平成33年3月18日

許可品目

燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類(自動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く)、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、金属くず(自動車等破砕物を除く)、ガラスくず・コンクリートくず(工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く。)及び陶磁器くず(自動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く)、がれき類(石綿含有産業廃棄物を除く)、ダスト類 以上14種類

岐阜県 許可番号02100075513

許可日 平成28年6月12日、有効期限:平成33年6月11日

燃え殻、汚泥、廃プラスチック類(自動車等破砕物を除く。)、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず(自動車等破砕物を除く。)、ガラスくず・コンクリートくず(工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く。)及び陶磁器くず(自動車等破砕物を除く。)、がれき類

上記9品目は石綿含有産業廃棄物であるものを除く。

廃油、廃酸、廃アルカリ、動植物性残さ、ばいじん
以上14種類

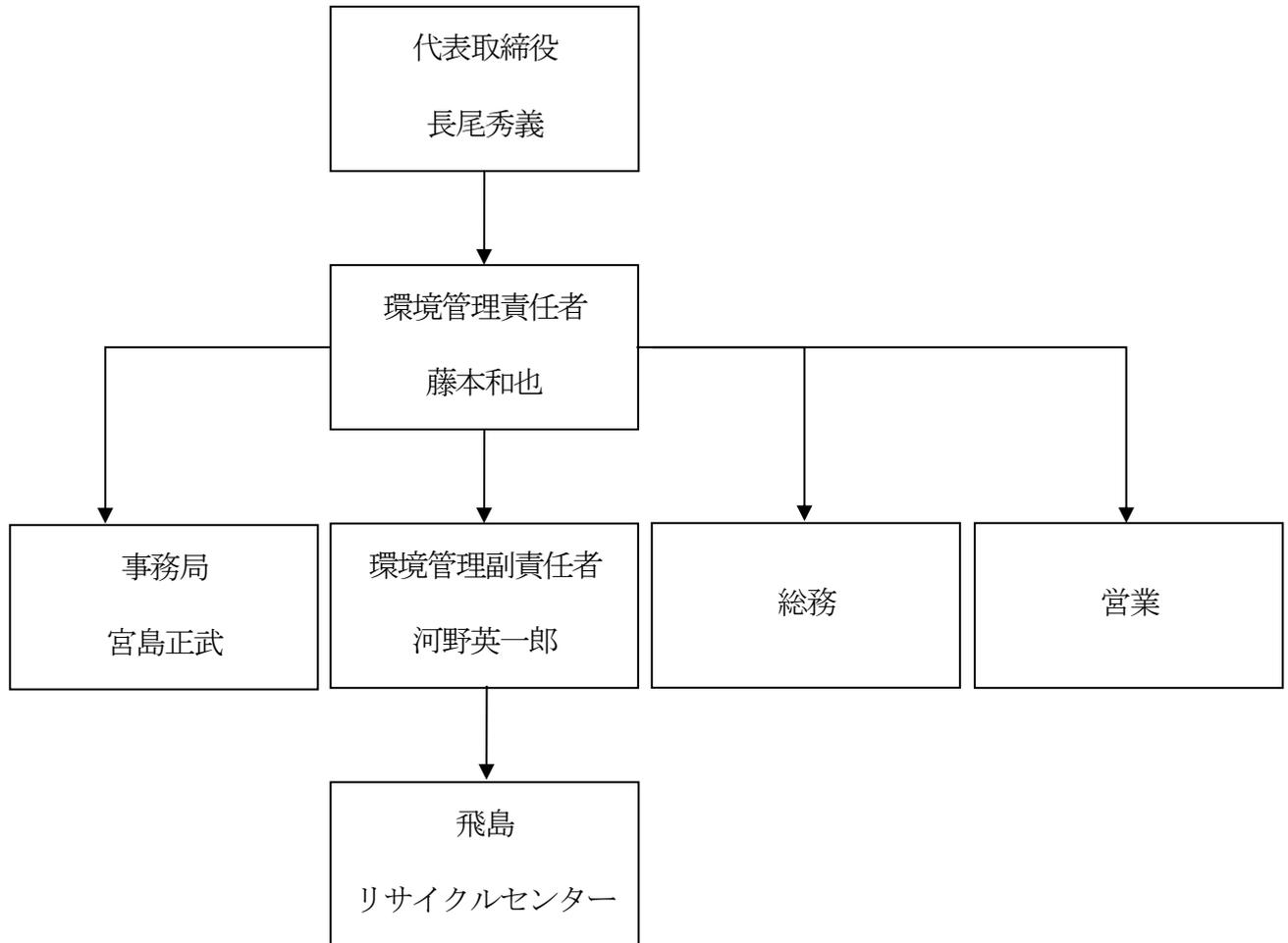
・年間処理量(中間処理業)	10,594.7 t	(2018.07.01~2019.06.30 実績)
・年間処理量(収集運搬業)	1,223.1 t	(2018.07.01~2019.06.30 実績)

■事業年度 7月 ~ 6月

3. 株式会社ワールド・クリーン 環境経営システム 組織一覧表／役割・責任・権限表

(全組織、全活動を対象として環境活動に取り組んでいる)

3-1. 組織一覧表



3-2. 役割・責任・権限表

環境経営システム 役割・責任・権限表

	役割・責任・権限
代表取締役	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任。 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備。 ・環境管理責任者を任命。 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境目標・環境活動計画書を承認。 ・代表者による全体の評価と見直しを実施。 ・環境活動レポートの承認。
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理。 ・環境関連法規等の取りまとめ票を作成・承認。 ・環境目標・環境活動計画書を確認。 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境活動レポートの作成。
環境管理副責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施。 ・環境活動の進捗状況の確認・報告 ・環境目標、環境活動計画書原案の作成補助。 ・整理整頓状況の管理
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐、EA21 推進委員会の事務局。 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施。 ・受入・出荷に関する集計表を作成します。 ・環境活動の実績集計。電気・水道・ガス・化石燃料の集計のほか、環境活動の実施レポートの取りまとめを行います。 ・環境への取り組み自己チェックリストを作成します。(年1回) ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口。行政機関や取引先との間での環境関連のコミュニケーションの窓口を担います。コミュニケーションが実際に行われた場合には、外部コミュニケーション記録を記載します。 ・環境活動レポートの公開（事務所に備付けと地域事務局への送付） ・毎月の社内報の発行を行います。
部門長	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門における環境経営システムの実施。 ・自部門における環境方針の周知。 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告。 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成 テスト、訓練を実施、記録の作成。 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施。
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

4. 環境目標

廃棄物の削減及びリサイクルの推進

項目 細目	基準年 (2015年度) (実績)	今年度目標 (2018年度)	次年度目標 (2019年度)	次々年度目標 (2020年度)
全排出量中の廃プラスチック類リサイクル量 (マテリアル・サーマル) 割合	2.0% (227.67 t / 11,331.88 t)	5.0%	15.0%	2018年度 +5.0%
全排出量中の飼料化割合	33.2% (3,766.92 t / 11,331.88 t)	33%	40%	2018年度 +5.0%
一般廃棄物量 (事務所ゴミ) 総量	464.04kg	10%減 (417.64kg)	12%減 (408.35kg)	2018年度 -5.0%

CO₂排出量の削減

(注) CO₂換算係数は0.486 kg/kWh を使用

総排出量 17年度 133,016 (kg-CO₂) 15年度 169,950 (kg-CO₂)

項目 細目	基準年 (2015年度) (実績)	今年度目標 (2018年度)	次年度目標 (2019年度)	次々年度目標 (2020年度)
受入れ廃棄物1tあたり 電力関係CO ₂ 排出量	9.67 kg-CO ₂ /t 【電力による総排出量】 105,503.31 (kg-CO ₂)	32%減 (6.57 kg-CO ₂ /t)	35%減 (6.28 kg-CO ₂ /t)	2018年度 -5.0%
受入れ廃棄物1tあたり 化石燃料 CO ₂ 排出量	5.16 kg-CO ₂ /t 【化石燃料による総排出量】 56,270.49809 (kg-CO ₂)	6%減 (4.85 kg-CO ₂ /t)	8%減 (4.74 kg-CO ₂ /t)	2018年度 -5.0%

排水量の削減

項目 細目	基準年 (実績)	今年度目標 (2018年度)	次年度目標 (2019年度)	次々年度目標 (2020年度)
受入れ廃棄物1tあたり 水使用量	0.097 m ³ /t 【総使用量】 1,071 m ³	9%減 (0.088 m ³ /t)	10%減 (0.085 m ³ /t)	2018年度 -5.0%

社会貢献、環境保全の仕組み・体制整備

項目 細目	基準年 (実績)	今年度目標 (2018年度)
地域での環境保全活動への参加	—	地域清掃活動への参加 (継続)
グリーン調達の推進		事務用品グリーン調達率 100% (継続)
国内外環境活動への協力参加		資源再生ネット、東海農環協、CRNへの参加 (継続)
体制整備 (コンプライアンス・従業員育成)	—	従業員環境教育の推進 (継続)
コミュニケーション体制整備		社内データ見える化推進 (継続)
環境整備		月あたり受託廃棄物処理能力 1000t 体制の構築 (継続)
社内美化		社内の整理、整頓、清掃の実施 (継続)

5. 環境活動計画

廃棄物の削減及びリサイクルの推進

項目 細目	管理項目	具体的活動
全排出量中の廃プラスチック類リサイクル量 (マテリアル・サーマル) 割合	サーマルリサイクル量 マテリアルリサイクル量	<ul style="list-style-type: none"> ・サーマルリサイクルへの排出量増加を目指す (サーマルリサイクル出荷先の開拓) ・内袋のマテリアルリサイクルの徹底 ・廃プラスチック類洗浄ライン設置
全排出量中の飼料化割合	飼料化量 全排出量	<ul style="list-style-type: none"> ・飼料化専門の担当者を置き、飼料化を推進する。 ・これまであまり進めてこなかったビン入り飲料の飼料化量を増加させる (継続)
一般廃棄物量 (事務所ゴミ) 総量	可燃ごみ量 不燃ごみ量	<ul style="list-style-type: none"> ・シュレッダーくずのリサイクルを徹底する。 ・封筒、メモ紙など古紙リサイクルの可燃ごみへの混入防止徹底

CO₂排出量の削減

項目 細目	管理項目	具体的活動
受入れ廃棄物 1 t あたり電力関係 CO ₂ 排出量	使用電力	<ul style="list-style-type: none"> ・照明 LED 化 ・夏季 28 度、冬季 20 度設定 (継続) ・工場天井扇の稼働台数を状況に応じて減らす (継続) ・休憩時間等の照明 OFF 等の徹底 (継続) ・工場内照明日中 OFF (継続)
	電力量増加の監視	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンド値を管理する (継続) ・中部電力 WEB サービス (使用量等管理) の利用
受入れ廃棄物 1 t あたり化石燃料 CO ₂ 排出量	ガソリン使用量 フォークリフト燃料使用量 (軽油)	<ul style="list-style-type: none"> ・エコドライブ推進 ※「エコドライブ手順」の遵守 (継続) ・社内報での定期的呼びかけ (継続)
	トラック燃料使用量 (軽油)	<ul style="list-style-type: none"> ・フォークリフトの燃料使用量把握 (継続) ・アイドリングストップ運動 ・旧型フォークリフトの入れ替え (継続)
	灯油使用量 LP ガス使用量	<ul style="list-style-type: none"> ・LP ガス給湯器、高圧洗浄機 温水スイッチの制御 (温度管理) (継続) ・灯油使用量の把握 (継続)

排水量の削減

項目 細目	管理項目	具体的活動
利用水の削減	上水使用量監視	<ul style="list-style-type: none"> 工場作業洗浄水の抑制(継続) 加水作業の縮減(継続) バルク洗浄水の使用量を把握し、節水対策を講じる。(継続) タンク洗浄方法改善検討(継続)

社会貢献、環境保全の仕組み・体制整備

項目 細目	管理項目	具体的活動
地域での環境保全活動への参加	地域清掃活動への参加	・2回/年の一斉清掃活動への参加
グリーン調達の推進	グリーン調達	<ul style="list-style-type: none"> 事務用品について、グリーン調達基準を満たしたものを購入 グリーン購入ネットワーク(GPN)に加盟する(継続)
国内外環境活動への協力参加	環境団体(UNEP等)・公共団体等開催のイベントへの協力	<ul style="list-style-type: none"> 資源再生ネット、東海農環協への参加 愛知県産業廃棄物協会 活動への参加
体制整備 (コンプライアンス・従業員育成)	体制整備・強化	<ul style="list-style-type: none"> 従業員環境教育 環境展視察 セミナー参加
		<ul style="list-style-type: none"> 緊急事態訓練の実施 組織変更、社員増員 障害者作業スペース拡大
コミュニケーション体制整備	見える化の推進	<ul style="list-style-type: none"> 処理トン数の把握(継続) 滞留日数の把握
環境整備	防虫・防疫強化 悪臭予防	<ul style="list-style-type: none"> 殺虫剤散布(継続) 消毒薬液の変更(強化) 水路清掃の徹底
社内美化	5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の清掃の実施(継続)

6. 実績

廃棄物の削減及びリサイクルの推進

(注) 化学物質の使用無し。

項目		基準年 (2015年度)	今年度目標 (2018年度)	今年度実績 (2018年度)
総排出量 (=受入れ廃棄物)		11,331.88 t		10,621.90 t
産業廃棄物の削減	全排出量中の廃プラスチック類リサイクル量 (マテリアル・サーマル) 割合	2.0% (227.67 t /11,331.88 t)	5.0%	2.6% (280.99 t /10,621.90 t)
	全排出量中の飼料化割合	33.2% (3,766.92 t /11,331.88 t)	33%	8% (838.71 t /10,621.90 t)
一般廃棄物の削減	一般廃棄物量	464.04kg	15年度に対して 10%減 (417.64kg)	15年度に対して 26%減 (342.20kg)

CO2 排出量の削減

(注) CO₂換算係数は0.486 kg/kWh を使用

総排出量 18年度 133,016 (kg- CO₂) 15年度 169,950 (kg- CO₂)

項目		基準年 (2015年度)	今年度目標 (2018年度)	今年度実績 (2018年度)
総排出量 (=受入れ廃棄物)	総排出量 (kg- CO ₂)	169,950		134,230.29
	電力使用に伴う排出量 (kg- CO ₂)	113,680		72,617.35
	化石燃料使用による総排出量 (kg- CO ₂)	56,270		61,612.94
電力の二酸化炭素排出量削減	受入れ廃棄物1 tあたり電力関係CO ₂ 排出量 単位: kg- CO ₂ / t	9.67	6.57 15年度に対して 32%減	6.84 15年度に対して 29.3%減
化石燃料の二酸化炭素排出量削減	受入れ廃棄物1 tあたり化石燃料 単位: kg- CO ₂ / t	5.16	4.85 15年度に対して 6%減	5.80 15年度に対して 12%増

排水量の削減

項目		基準年 (2015年度)	今年度目標 (2018年度)	今年度実績 (2018年度)
水使用量の削減	総使用量	1,071 m ³		924 m ³
	受入れ廃棄物1 tあたり水使用量 単位: m ³ / t	0.097	0.088 m ³ / t 15年度に対して 9%減	0.087 2015年度に対して 10%減

社会貢献、環境保全の仕組み・体制整備

項目	管理項目	活動実績
地域での環境保全活動への参加	地域清掃活動への参加	・2回/年の一斉清掃活動への参加
グリーン調達の推進	グリーン調達	<ul style="list-style-type: none"> ・コピー用紙はグリーン調達基準を満たしたものを購入。(継続) ・購入リストを定め、コピー用紙以外の文房具もグリーン調達基準を満たしたものに变更中。 ・グリーン購入ネットワーク(GPN)に継続して加盟中。
国内外環境活動への協力参加	環境団体(UNEP等)・公共団体等開催のイベントへの協力	<ul style="list-style-type: none"> ・資源再生ネット、東海農環協、CRNへの参加実施(継続) ・愛知清掃事業連合会に参加 ・愛知県産業廃棄物協会 活動への参加実施。尾張西支部 支部役員就任。(継続) ・藤前干潟清掃活動参加
体制整備 (コンプライアンス・従業員育成)	体制整備・強化	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員環境教育(愛知県産業廃棄物協会主催 実務者教育等参加) ・環境展視察 実施。 ・先進企業視察(石坂産業) ・碧南火力発電所視察研修実施
		<ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態訓練の実施
コミュニケーション体制整備	見える化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・処理トン数の把握(継続)実施。 ・在庫管理システムを活用し、滞留日数の把握を実施中。(継続) ・フォークリフトメンテナンス記録等見える化実施(継続) ・フォークリフト業者による定期点検
環境整備	防虫・防疫強化 悪臭予防	<ul style="list-style-type: none"> ・殺虫剤散布による害虫の抑制(継続) ・消毒作業強化(薬剤の変更)(継続) ・防疫のための消石灰散布
社内美化	5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の清掃の継続実施。

7. 環境活動計画の取組みと評価、次年度の取組み

(1) 2018年7月～2019年6月の1年間の活動と取組み及びその評価

(注) 目標の達成状況 ○：目標値以上 △：目標値の80%以内 ×：目標値の80%以下未達

活動計画・達成状況	環境活動計画の取組結果の評価
<p>廃棄物の削減及びリサイクルの推進</p> <p>■産業廃棄物： 目標：全排出量中の廃プラスチック類リサイクル量（マテリアル・サーマル）割合 5% 結果：全排出量中の廃プラスチック類リサイクル量（マテリアル・サーマル）割合 2.6% (280.99 t / 10,621.90 t)</p> <p>■産業廃棄物： 目標：全排出量中の飼料化割合 30% 結果：全排出量中の飼料化割合 8% (838.71 t / 10,621.90 t)</p> <p>■一般廃棄物 一般廃棄物量 2015年度に対して3%減 (450.12kg) 結果：2015年度に対し26%減 (342.20kg) 目標の達成状況：×</p>	<p>廃プラスチックのサーマルリサイクル量の拡大を図ったが、量の拡大はならなかった。受け入れ先が搬入量を抑制するために受け入れ品質基準をあげており、汚れの比較的多いものが搬入できなくなったことが理由である。19年度も高い目標（15%）を掲げているが、廃プラスチックをめぐる状況は改善の傾向が見られていないため、20年度から中期計画を立て直す必要がある。</p> <p>飼料化割合は大きく下がってしまった。もっとも大きな理由は豚コレラの拡大である。発生エリア周辺で発生した廃棄物は養豚事業者が受け入れをしないこととなったため、飼料価値のあるものであっても飼料化することが出来なかった。</p> <p>一般廃棄物については大きく減らすことが出来たが、もともとの数量が小さいために割合が大きく出ているだけと見ることもできる。 結果としては、目標を達成することは出来なかった。</p>
<p>CO₂排出量の削減</p> <p>■電力関係 目標：受入れ廃棄物1tあたり電力関係CO₂排出量 15年度に対して35%減 結果：受入れ廃棄物1tあたり電力関係CO₂排出量 6.84 kg-CO₂/t 15年度に対して29.3%減 【2018 電力関係排出量】 72,617.35 (kg-CO₂)</p> <p>■化石燃料 目標：受入れ廃棄物1tあたり電力関係CO₂排出量 15年度に対して35%減 結果：受入れ廃棄物1tあたり化石燃料CO₂排出量 5.80(kg-CO₂/t) 15年度に対して14%増 【2018 化石燃料関係排出量】 61,612.94 (kg-CO₂) 【総排出量】 15年度 169,950 (kg-CO₂) 18年度 134,230 (kg-CO₂) 目標の達成状況：×</p>	<p>電力関係では、目標に届かなかったもののある程度の削減をすることが出来た。ただ、削減の大きな理由としては飼料化が減ったことで冷蔵庫の利用時間が大きく減ったことが大きい。事務所のLED化などを進めたが、大きな削減は飼料化の現象であるため、今後の大きな削減は困難になる可能性がある。</p> <p>化石燃料関係では、目標を達成することは出来なかった。収集運搬業務の縮小に伴う軽油使用量の減少は見られたが、営業車のガソリン使用量の増加及びフォークリフトの軽油使用量が伸びたために排出量は伸びてしまった。豚コレラや同業者の逮捕により、食品リサイクルにおける堆肥や飼料の需給バランスが崩れ、当社の業務も大きく影響を受けており、業務内容が煩雑になったことが考えられる。</p> <p>総排出量としては基準年度を下回っているため、ある程度の結果は出ていると考えたいが、目標を達成することは出来なかった。</p>

活動計画・達成状況	環境活動計画の取組結果の評価
排水量の削減 受入れ廃棄物 1 t あたり水資源投入量の削減 ■水使用量 2015 年度に対して 9%減 結果：受入れ廃棄物 1 t あたり水使用量 0.087 2015 年度に対して 10%減 目標の達成状況：○ 【総使用量 924 m³】	<p>以前行っていた大型機の洗浄回数を減らしたことで、及び飼料化が減ったことにより容器の洗浄頻度が下がったため、水の使用量は減ることとなった。節水を心掛けてはいるが、今後飼料化が回復した場合には使用量が大きく増えることが予想される。</p> <p>目標は達成されたが、今後に不安が残る結果となった。</p>
社会貢献 ※現状把握及び基準の策定 目標の達成状況：○	<p>グリーン調達については、例年の活動に加えてコピー用紙以外の購入リストを定めた。社外の団体との協力という点については、新たに愛知県清掃事業連合会に賛助会員として参加したほか、愛知県産業廃棄物協会での活動も新たに安全衛生委員に任命されるなど活動を強化できた。藤前干潟における清掃活動についても、例年通り参加することが出来た。</p> <p>しげんさいせいネットにおいても、飼料化事業委員会や加熱飼料製造研究会などでリサイクルの向上につながる活動が出来た。</p> <p>派手な成果があったわけではないが、地道な活動を進めることが出来たので、目標は達成できたと考える。</p>
環境保全の仕組み・体制整備 ※体制整備 目標の達成状況：○	<p>フォークリフトについては、各フォークリフトごとに点検スケジュールを設定し、特定自主検査以外に年 2 回以上の定期的な点検を実施できた。フォークリフトの正常な稼働を維持できたことで、不必要なエネルギー等の縮減が出来たと考えている。</p> <p>環境展などの展示会の視察に加えて、従業員に希望者を募る形で先進企業の視察をスタートした。今後も継続して社外の先進的な取り組みの視察を行い、自社の活動強化につなげていく。</p> <p>継続して受け入れた廃棄物等の見えるかを実施できた。</p> <p>豚コレラが大きく感染を広げたため、消毒作業の強化に加えて消石灰による敷地入り口での防疫活動を行った。主力取引先である岐阜県の養豚事業者において豚コレラが発生することなく安定的にリサイクルできることに十分な協力を行えた。</p> <p>数字の見えるかについては継続して行うことが出来た。</p> <p>目標は達成できたと考える。</p>

(注) 目標の達成状況 ○：目標値以上 △：目標値の 80%以内 ×：目標値の 80%以下未達

(2) 2016-2018年度 中期計画

2015年度までの結果を基に策定した中期計画を下表に示す。

項目	中期計画内容
廃棄物の削減及びリサイクルの推進	全排出量中の飼料化量を40%に向上(15年度 33.2%) 廃プラスチック類リサイクル量(マテリアル・サーマル)を全排出量中の5%へ向上(2015年度 1.5%) バイオ発電・燃料の事業化調査
CO ₂ 排出量の削減	※受け入れた廃棄物量単位重量あたりのCO ₂ 排出量の削減 CO ₂ 排出量6%減(15年度対比) 時間外勤務縮減(時間外勤務0を目標) 旧式トラック廃止 工場内・事務所照明LED化
排水量の削減	※受け入れた廃棄物量単位重量あたりの水資源投入量の削減 水資源投入量9%減(15年度対比) バルブごとの水道メーター設置による作業ごとの水使用量の把握・節減
グリーン調達	コピー用紙グリーン調達率100%の継続 グリーン調達品目の拡大(事務用品について100%を目指す)
社会貢献	国内外環境活動への協力参加(地球友の会他) 障がい者 作業業務拡大(6名→12名、従事作業の高度化) 障害者団体事業所をリサイクルセンター内に受け入れ
環境保全の仕組み・体制整備	見える化の推進 組織変更・正規社員(事務員・現場作業員)増員による管理能力向上 月あたり処理量1,000t体制の確立(効率アップ)

中期計画に対する実績について

廃棄物の削減及びリサイクルの推進については、目標を達成することが出来なかった。中国の廃プラスチック類輸入停止、豚コレラなど外的要因が大きかった。バイオ発電・燃料の事業化調査は継続して行っているが、記載できるほどの大きな進捗があったわけではない。

CO₂排出量の削減についても目標が達成できなかった。年によって電力使用量が下がったりしたこともあったが、時間外勤務の縮減ほとんど見られないなど、根本的な対策が行えていない。LED化は事務所については対策がおおむね終了したが、工場については業者見積の段階にとどまった。

排水量の削減は達成できたが、飼料化量の減少に伴う削減効果が大きいように思われる。バルブごとの水道メーターの設置により作業ごとの水使用量の把握は出来るようになった。

グリーン調達品目の拡大は、調達リストを整備するなどコピー用紙以外にも対応を進めることができた。障害者団体の増員、及び作業の高度化については、11名に増員でき、かつ障害者団体のみで処理機械の運用が行えるようになるなど、中期計画はおおむね達成できた。

環境保全の仕組み・体制整備については、見える化は週報に廃棄物出荷情報を取りまとめたり、在庫情報をリストにより確認できるようにするなど進捗が見られた。ただ、事務員の増加は出来たものの工場作業員は増加しても辞めてしまうなどして、結果として増員できず、月当たりの1,000t処理体制は確立できていない。

8. 環境関連法規制等の順守状況

適用される法規制	遵守状況
廃棄物処理法	遵守
浄化槽法	遵守
消防法	遵守
労働安全衛生法	遵守
下水道法	遵守
水質汚濁防止法	遵守
悪臭防止法	遵守
食品リサイクル法	遵守
フロン排出抑制法	遵守
愛知県条例(県民の生活環境の保全等に関する条例)	遵守
愛知県条例(廃棄物の適正な処理の促進に関する条例)	遵守

環境関連法規制等の順守状況の評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。
 なお、関係当局よりの違反等の指摘及び訴訟は、過去3年間ありません。

9. 廃棄物処理料金 単価一覧

廃棄物種類	単価	単位	備考
動植物性残渣	45円	Kg	荷姿により価格は変動します。
汚泥	40円	Kg	荷姿により価格は変動します。
廃酸	35円	Kg	荷姿により価格は変動します。
廃アルカリ	35円	Kg	荷姿により価格は変動します。

上記の単価については一般的なものであり、飼料化の適・不適等により価格は変動します。
 また、容器の材質によっても変動します。(上記の価格は廃プラスチック類の場合)

10. 代表者による全体評価と見直しの結果

電力使用量の削減によりCO₂を削減する場合、LED化以外は設備変更による削減は難しい。まずは工場内の水銀灯について、現在進めているLEDへの交換計画を早急に進めなくてはならない。

化石燃料の使用については、車両導入に関する基準の中にハイブリッド等の条件を明確化し、車両入れ替えの際に対応していく。それまでの間については、改めてエコドライブや不要なアイドリングを減らす、効果的な有料道路の利用などの対策を講じてもらいたい。

なお、大きな削減目標を掲げることを目的とするのではなく、地道な活動計画を積み上げ、実現可能な中で目標を設定するようにすべきである。中期計画についても、良案があれば積極的に見直しを指示していく。

現状の処理能力と10,000tを超える受け入れ量とを比べると、やはりまだまだ処理能力が不足している。時間外勤務の量を見ても明らかである。飼料化は手間のかかる作業であり、新規雇用或いは省力化により余力を生み出さなくては飼料化を増やすことは難しい。省力化については設備整備などをより具体的に検討していく。

一般廃棄物については、廃棄物の削減、古紙の活用はもちろん大切であるが、有休など各種申請書を出来る限りペーパーレスにするなど、そもそも不要なものが出にくい体制にしていくことを検討すべきである。

資料：株式会社ワールド・クリーン 処理フロー図

